「平成２２年度普及に移す成果」

沖積土壌における精麦用六条大麦「シルキースノウ」の高品質安定栽培法

農業総合センター農業研究所

沖積土壌において、精麦用大麦の品質評価基準である、容積重 690g/ℓ 以上、精麦白度 43 以上、硝子率 40%以下を達成できる「シルキースノウ」の栽培法を確立しました。

播種適期	11 月 5 日～11 月 15 日
播種量	6kg/10a
基肥窒素量	6～8kg/10a
追　肥	茎立期の生育量【草丈（cm）×茎数（本/㎡）×葉色（ＳＰＡＤ値）】が 120 万以下の場合には、茎立期までに窒素量 2kg/10a 施用し、それ以降の追肥は控えます。

原麦粗蛋白質含量が増加すると、精麦白度は低下し、硝子率も増加して、精麦品質が悪くなります（図１，図２）。
このため、精麦白度 43 以上・硝子率 40%以下を達成するためには、原麦粗蛋白質含量（水分 13.5%時）をおよそ７%以下に保つ必要があります。

原麦粗蛋白質含量は、茎立期の生育量と正の相関があります。その値が 120 万以下であれば、茎立期に追肥しても原麦粗蛋白質含量が７%以下となります（図３）。

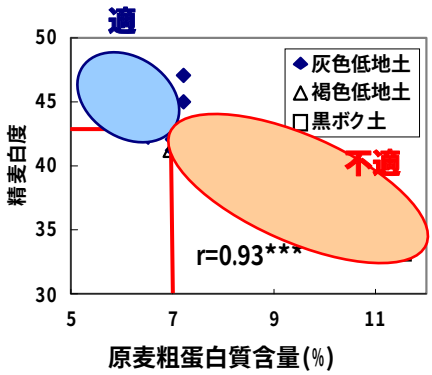

図１　原麦粗蛋白質含量と精麦白度との関係

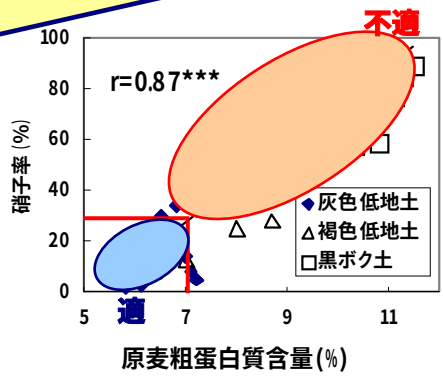

図２　原麦粗蛋白質含量と硝子率との関係

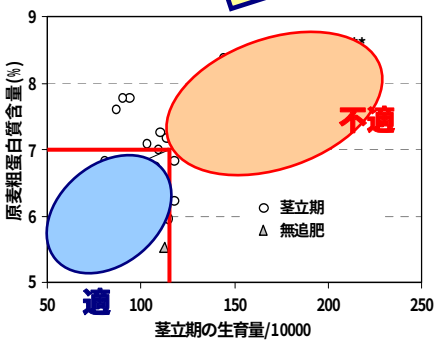

図３　灰色低地土における原麦粗蛋白質含量と茎立期の生育量との関係

栽培上の注意点

1）黒ボク土の圃場では原麦粗蛋白質含量が高まりやすく、精麦品質が劣るため、作付しないようにしましょう。また、野菜跡や家畜糞堆肥を連用した圃場なども栽培を避け、基肥窒素量は土壌の肥沃度に応じて加減します。

2）沖積土で地下水位を 40～50cm 以下に保てる圃場が適します。

3）11 月下旬以降の遅まきは精麦品質が低下するので、遅くとも 11 月 20 までには播種を終えましょう。

4）赤かび病の防除は穂揃い期に必ず行います。

＜　問い合わせ先：農業研究所　作物研究室・水田利用究室　電話 0297(62)0206　＞